

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を念頭に日々のケアに取り組んでいる。また、朝のミーティング時に確認している。	法人として複数あるグループホーム共通の理念を掲げている。事務所や各ユニットの入り口に理念を掲げ、来訪者や家族も目にする事が出来る。職員は朝の申し送り時に話し合いの機会を持ち、実践への意識づけがされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる「防災訓練」に参加したり、「小学校の運動会」に見学に行っている。	自治会に協力費を納め、地区のふれあいサロン等の行事のお誘いを受けている。地区の防災訓練に参加したり、小学校の運動会の見学にも出かけている。散歩で近隣の人々に挨拶し立ち話になることもある。ホーム主催の秋祭りはボランティアの方々も参加し盛大に行われている。地区の秋祭りでは獅子舞がホームに立ち寄っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の方々の暮らしに役立つことがないか、ホーム内で話し合うことを進めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、開催している。運営推進会議の中でグループホームの活動状況の報告、防災訓練への協力の説明など行っている。グループホームの理解が深まる機会になっている。	年6回開催されており、家族、区長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員などが参加している。ホームからの報告や参加者からの意見や要望をいただき、地域との関わりやサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談が生じたときは、市へ連絡を取っている。運営推進会議に、長野市の介護保険課の担当者が参加しているため、そのときにも事業所の状況について説明している。	市の体験学習の受け入れ先として登録しており、昨年も中学生2名を受け入れた。介護認定の更新もホームで行われている。市からの要請を受け、管理者が介護相談員講習会の講師を務めたこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないための研修を行い、身体拘束をしない取り組みをしている。	職員は身体拘束の研修から内容や弊害について十分理解している。日中、玄関の施錠はしていない。外出傾向の入居者には見守りを主に対応しているが、センサーで感知することも出来る。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を行い、防止に努めている。		

グループホームながぬま・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加し、制度の理解を深めている。また、制度の活用ができるか具体的な相談も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約を結ぶときは、家族に十分に説明し、話し合い、理解、納得を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会において、利用者やその家族から個別に聴く機会を設けている。出された意見は、検討し、家族に説明するとともに、サービスに反映させている。面会時にも、近況報告をするとともに、意見を聴く機会を設けている。	家族の来訪については家庭の事情もあり様々で、毎月送られるホームの「ながぬま通信」でも入居者の様子を知ることが出来、今後この通信を有効に活用して行く方針である。年1回の家族会でユニットごとの日頃の様子を伝えたり個別の懇談も行っている。ホーム主催の秋祭りでは家族が利用者の隣で食事し、家族同士の交流も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などで、聞く機会を設けている。出された意見は、検討され、運営に反映している。	朝の申し送り時に職員は意見を述べるようにしている。何かあった時はリーダーを通じて管理者に伝えられ、運営に反映させている。日常の業務の合い間をみて、管理者と職員が気軽に話すことが出来る。	朝の申し送り時の意見交換だけでなく月に1回程度の定例会の開催を期待したい。情報の共有化が出来、職員が意見を発言することで自己啓発にもつながるものと思われる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や実績を配慮し、話し合いの上で、リーダー、マネージャーなどの役割になれる仕組みを作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には段階に応じて、外部の研修を受ける機会を設けている。内部研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野県宅老所、グループホーム連絡会に加入している。		

グループホームながぬま・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との話し合いを重視し、できるだけ付き添い、本人の不安を最小限に出来るように努め、少しでも早く信頼関係が作られるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面会において、心配していること、困っていることなどを気軽に相談できるように配慮し、少しでも早く家族との信頼関係が築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時には、本人と家族の状況を評価し、本人と家族が真に望んでいる支援を模索し、情報提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に作業をしている中でも、利用者の方に教えてもらったりし、生活を一緒にし、共に支え合うという関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡もできるだけ取るようにし、状況を報告し、相談しながら、一緒に住んでいなくても共に本人を支えているという関係が築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の訪問を受け入れている。	グループホーム入居前のデイサービスの職員や近所の友人などの来訪がある。親戚や知人との年賀状のやりとりも行われている。馴染みの美容院へ出掛ける入居者や家族との日帰りの温泉を楽しむ方、行事や記念の日に合わせ自宅へ帰り食事をする方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が、共に適切な関わり合いができるように、場合によっては、職員が、間に入って関係を取り持ったり、調整したりしている。		

グループホームながぬま・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な場合は、退去後も、入所先の新しい施設に訪問し、利用者の状況を把握する体制がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一対一での会話や、本人の言動から意向、希望、気持ちを尋ねたり、探したりすることで、把握に努めている。ケアプラン作成時には、必ず、把握することになっている。	職員は毎日の生活の中での入居者の様子や会話から思いを汲み取っている。「善光寺に行きたい」、「買い物に行き好きなお菓子を買いたい」、「菊花展に出かけたい」などの希望から、個人や数名のグループに分かれ出かけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルの生活史、フェースシートなどを使い個人のこれまでの様子、食べ物の好き嫌いなど、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の様子を個人記録に記入したり、カンファレンス時の話し合いを通して、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にかンファレンスを実施し、ケアに携わっているスタッフと各利用者担当スタッフで、まず「本人の望むことは、困っていることは何か」という視点から介護計画を作成している。	本人や家族の意向を基に、担当職員や他の職員の情報から計画作成者によって介護計画が立てられている。見直しは3ヶ月に1回行っているが、状況や意向が変わった場合には現状に即して作り変えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、連絡ノート、服薬ノート、日報を使用し、スタッフ同士の情報を共有し、実践や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の支援、外出の支援などその時々に応じて対応している。		

グループホームながぬま・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティアの方々には、行事に参加して頂くなど協力支援して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切に、入居後も同じかかりつけ医で継続するようにしている。変更する場合は、本人及び家族と相談しながら、決めている。	入居前からのかかりつけ医を継続する方や本人・家族の希望で協力医に変更する方もいる。家族同行の受診が原則であるが、職員が付き添うこともある。受診結果については電話で家族に報告している。協力医による月2回の往診があり、予防接種も協力医により行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回、看護師が健康チェックを行うので、その時に相談しながら、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	『重度化した場合における対応に係る指針』を作成し本人または家族に説明し同意を得ている。	重要事項に記されている「・・・最後までケアする」を基本方針としている。状況に応じて家族や医師、職員との話し合いが行われる。開設から3年目を迎えているが現在まで看取りはない。	入居者の重度化や急変も考えられるので研修等で更に知識を広め、具体的な支援方法について研究・検討されることを望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の研修を計画している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。昨年の秋の訓練は、夜間想定訓練を実施し、近隣の方も参加し、柳原消防署の方に指導していただいた。	スプリンクラー、防火シャッター、2階からの非常階段と非常スロープが設置されている。昨年秋には夜間想定避難訓練が地域消防署指導の下、地域住民や入居者も参加し行われた。今後も2ヶ月に一度ホーム独自の防災訓練を行い、課題を見つけ出し、解決につなげていく方針である。	

グループホームながぬま・1階

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ・入浴などの誘導時の声かけは、他の利用者に聞こえないように、小さな声で、また、利用者が一人になるようにしてから、行っている。丁寧な言葉使いにも心がけている。	職員は苗字に「さん」づけで入居者のことを呼んでいる。トイレ誘導もさりげなく行われるような間取りになっている。洗面台の上にはガラス戸の棚があり、歯ブラシやコップの保管についてもプライバシー確保の点で配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物は利用者の希望を聞いたり、選べるように、予め利用者が好きそうなものをいくつか選んでおいたりするなど、色々な場面で、利用者が自分の希望を表せるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安心して食事が摂れるようにその人のペースで食事が摂れるように支援したり、会話も本人のペースで話せるように、ゆったりと聞いている。一日の流れも常に尋ねながら過ごしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回、美容師に訪問して頂き、利用者の希望に応じて、カットを行っている。外の店にも本人の希望に応じて行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶入れ、配膳、食器の片付け等、それぞれ出来ることを声をかけながら一緒に行っている。	訪問時の昼食はパン食で入居者によってパンにジャムが塗られていた。男性入居者が男性職員に「このパンは孫にやるんだ。孫は可愛いよ。あんた若いから孫はいないね・・・」と微笑ましい会話がされ、周囲の入居者からも笑みがこぼれその場が和んだ。希望により切り替えられるようにご飯も炊かれており、入居者への細かい気配りが献立内容にもみられた。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分がなかなか摂れない時は、本人の好きな物を出したり、食べやすい環境を作っている。食べる量、水分量は、毎日記録し、一人ひとりがどの程度摂取しているか、把握している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に応じて、口腔ケアを行っている。			

グループホームながぬま・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録用紙を使い、一人ひとりの排泄パターンを把握し、それに合わせて誘導している。	自立の入居者が多いが全員の排泄表が作られており、パターンの把握に努めている。職員は排泄表を基に入居者に声かけや介助をしている。夜間のみポータブルトイレを使用する方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト、ゼリーなどを摂るようにしたり、朝食に消化を助ける食べ物を摂るようにしたり、また、トイレで腹部のマッサージを行ったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めずにいつでも入れるようにしている。入浴の状況や本人の希望を聞き、入浴を支援している。	入浴は希望により一人、あるいは二人・三人一緒になど、その日の気分や状態に合わせて対応している。毎日や一日おきに入るなど思い思いに入浴している。菖蒲湯やゆず湯などで季節を感じたり香りも楽しんでいる。家族と日帰りで温泉へ出かける入居者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時は、本人が眠くなるまで、リビングでテレビを見て過ごしたり、スタッフと話しをしたり、お茶を飲んだりして、ゆったりと過ごすようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ノート、薬情報ファイルをつくり、用法や用量の理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご飯の盛り付け、庭での野菜の収穫など、利用者それぞれの力に合わせて、家事などを行う支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、野菜取りなど、利用者の希望に沿っての外出を支援している。また、季節ごとに花見、中野ばらまつり、七夕、臥竜公園の菊花展、善光寺の菊花展などに外出する機会をつくっている。	冬でも道に雪がないと近所を散歩している。介助なしで自力で歩く方、車イスを使用する方など、思い思いのペースで散歩している。散歩中に「どこかに行きたい・・・」、「御菓子が食べたい・・・」などの要望が出て、それらを年間の外出行事に組み込み計画を立て、市内や近隣の七夕、花見、菊花展等に出掛けている。	

グループホームながぬま・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持できる方には、所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、家族へ電話をすることを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事作りなどの生活に伴う音や匂い、光が静かな空間に広がるようにしている。また、音による雑音が利用者の混乱を招かないように静かな空間作りをしている。	昼食の匂いの漂う居間兼食堂で職員と入居者が歌集を見ながら「富士の山」などを歌ったり、テレビを見たりと、思い思いの過ごし方をしている。一段高くなった和室には季節のお雛様が飾られ、華やいだ雰囲気を出していた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、食堂、和室、洗面台の横のベンチなど、休めるところを選べる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを配慮するようしたり、また、本人にとって理解しやすい環境作りを工夫している。	格調高い家具やサイドボード、テレビ、仏壇、鏡台等をしつらえた居室、身の回りだけの簡素な居室など、各入居者の暮らしぶりが窺われる居室づくりがされていた。夜間気になる入居者の居室には移動式のコンパクトセンサーを置き、リスクを回避している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は、バリアフリーであり、歩行機能が低下しても、できるだけ歩行器を使用して歩けるように支援している。		